



●ザ・キッズ

11月11日/多夢

雨模様の天気で客足が心配されたけど、開場の頃にはすっかり止み、すぐに多夢は満杯。季節外れのクーラーがかかっても、店内の壁に備え付けてある鏡はライブが終るまで曇りっぱなしだった。

前日深夜、練習帰りの桐明(g.)と寺山(ds.)の乗った車に、なんとタクシーが追突。「首がいてエ。」などとボヤいていた桐明だったが、今回のライブで最初に気付いたのが、彼の歌い方が多少変わったこと。以前は割とベタツとした油っこい歌い方だったのに、今回はピリッとブラック・ペッパーが効いた引き締った味がした。油っこい味つけが悪いというんじゃない

いけど、「ピリッ」味の方がキッズの曲のメッセージを一層美味しく食べられるような気がした。

「グルーピー・ガール」に始まって、割とお馴じみの曲構成のステージ、後半は全員総立ちの大ダンシング大会。しかし多夢もマンションの一階という環境でよくライブを維持していけるものだ。

思えばキッズ、10月10日の須崎公園ライブではどうも不調で、前に押し寄せたファンもなんか肩すかしをくらったみたいだったけど、あの時披露した曲はそれまでのビュンビュンとばすキッズというイメージとは違った、泥クサイ曲が多かった。「最近ストリート・スライダーズを聴いとる」という千葉(b.)の言葉が関係しているのかどうかは知らないが、今回のステージにそういう曲が目立たなかったのは、ただプログラムに組み込まれていなかっただけなのかそれとも試行錯誤(?)の結果なのか？

こんなことをチラチラ考えながら観たライブ、それにしてもあんなに動いた桐明は久しぶりに観たぜ。イエーイ、ジャンピン・ザ・桐明！ピーちゃん、ビールごちそうさま。(F.Mayle)